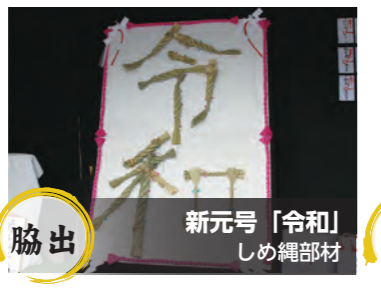


本陣飾り物コンクール

本陣飾り物の歴史は江戸時代までさかのぼり、参勤交代で本陣に泊まる殿様や役人の労をねぎらうため、商人たちが各家庭から持ち寄った日用品で飾り物を制作したことが始まりといわれています。コンクールは昭和35年に始まり、金津地区の18地区が毎年テーマを考え制作し、出来栄を競います。



金津本陣「KOSSA」、金津雲雀ヶ丘寮、セントピアあわら、新富・天王・新・六日・水口・古区の本陣(常設展示場)で作品の一部を展示します。



令和初の金津祭もにぎやかに



市の無形民俗文化財「金津祭」が、7月13日から15日まで行われました。

前日祭では、祭りの先陣を切って、武者行列が出陣しました。今年には、柿原の殿様「多賀谷左近三経公」が2回目の登場。金津高校の生徒が扮する殿様一行に、子どもや大学生、外国人たちも甲冑姿で加わって、お囃子の音色とともに練り歩き、祭りの始まりをにぎやかに告げました。夕方には、ステージイベント「響宴」が開催。市内で活動する団体が、太鼓や祭囃子、ダンスなどを披露しました。

前日祭には、三経公の出身地という縁をきっかけに、姉妹都市を締結した茨城県下妻市の菊池市長、原部市議会議長らの一団も訪れ、金津祭と一緒に楽しみました。

祭りのメインである中日祭では、東区の神社神輿や、六日区の「源義経」、中央区の「弁慶」、十日区の人形を2つ載せた「桃太郎の鬼退治」の3基の人形山車が、金津地区の18地区を巡行。それぞれの地区の本陣飾り物の前で太鼓や子ども踊りを奉納しました。小雨が降るあいにくの天気となりましたが、元気いっぱいな子ども踊りと迫力満点の太鼓に、各地区は盛り上がりしていました。